

第4回 タウンミーティング（地域自治会意見交換会議）議事要旨（佐井寺・五月が丘地域）  
 開催日時：平成29年6月26日（月）午後2時～ 場所：千里山コミュニティセンター 参加者数：12人

地域	No.	事前の住民意見	当日の住民意見・市の回答
	1	<p>公民館は市民の生涯教育の場でありつつ、地域活動の拠点にもなっている。生涯教育の最終目的は、学びだけで終わらずその実践だと考える。それが地域活動・市民活動に繋がり、地域力・市民力を上げていく。ニュータウンは例外だが、小学校区に公民館があるのを利用して、小規模多機能自治を実現できないか。</p> <p>連合自治会推薦の館長ではなく地域コーディネーターを配置し、今検討されている高齢者支援サービス体制の拠点や社協のCSW、包括支援センター、子育て支援の居場所、防災・防犯などすべての市民の生活支援サービスを繋ぐ場所にし、市民課の窓口情報力を持ちつつ、地域住民が地域の情報も持って運営できる場所でありたい。</p> <p>現在、連合自治会が単一自治会を包括して代わりに事業をしている感が強く、かえって単一自治会のコミュニティ崩壊を招いている。単一自治会の支援・運営相談に乗れる中間支援の地域コーディネーター（養成講座・修了試験を受け、必要な知識・能力等を有する人）が必要だと思う。</p> <p>公民館という地域教育部の管轄施設だが、地域財産を上手に活用することを考えて欲しい。</p>	<p>（市長回答）                      地域コーディネーターについて、性善説からのご提案だが、性悪説から言うと、「地域のことは全部俺に聞け。俺が情報を全部持っている」という人が「自分は地域コーディネーターだ」と思っている場合もある。</p> <p>公民館については、もともと、国民の民度を上げるために学びの場を行政が用意しているもので、名前だけがそのまま残っている。コミュニティ施設ではないので、真面目にとらえる館長は「民度を上げる」ことを考えるが、今では民間の学習施設はいくらでもあるので、コミュニティ醸成のため、館長の裁量でもっとゆるやかにしてもよいのでは。せつかく多くの公民館があるのに、公民館のあり方について真正面からの議論ができていない。</p> <p>ところで、館長は吹田市が連合自治会にお願いしているのか。                      （傍聴の議員）                      連合自治会長が推薦した人を企画運営委員会が承認して、教育委員会にかけて決定する。</p> <p>（市長）                      自治会加入率が2割を切っている地域もあるのに、100%加入している場合のようなやり方だ。なり手がないのか。調べておく。（※）</p> <p>（※）まなびの支援課に確認したところ、公民館長については、教育長が推薦して教育委員会で承認されるものだが、教育長も各地域の人を知っているわけではないので、前もって連合自治会長に相談し、会長から推薦された人について公民館の企画運営会議にはかって意見を聞いたうえで、その人を教育長が推薦するという形で教育委員会にかけて、承認を得ている。</p>
五月が丘	2	<p>中消防庁舎移転に伴い、跡地をどのように活用されるのか今後の方針について聞きたい。</p> <p>なお、地域としては民間への売却等は行わないで公共の施設としてそのまま使用して頂きたいとの意見を多数聞いている。                      （例：公民館、こども園、こども～高齢者までが一緒に過ごせる場所としての施設、保育所：早朝～夜遅くまで子育てママ・パパが対応可能な保育所施設）</p>	<p>（市長回答）                      中、北消防庁舎の機能を融合して南千里に新しい防災の拠点を作るが、移転には原資が必要であり、跡地の売却益を充てる方針を持っている。もし、中消防庁舎のある地域に「この公共施設が足りない」というのが明確にあれば「ちょうどいい。残しておこう」となるかもしれない。</p> <p>（住民意見）                      中消防庁舎は中学校の門のすぐそばにある。民間に売却したらどんな業者になるかわからないので心配。車庫がある施設なので、そのまま流用して、車で出入りできる保育所にしてはどうかという提案である。共働きの世帯が多いと思うので。</p> <p>（市長回答）                      保育所の設置については保育需要を分析し、計画的に進めているので、おのずと地域ごとに優先順位ができる。五月が丘では消防庁舎の跡を保育所にしなければならぬほど逼迫していない。ある程度子どもが来てくれないとペイしないので、民間の保育の事業者も来てくれないだろう。実は、土地建物があつてすぐ保育所に転用できる場所は他にもあるが、そういう場所では保育需要が少ない。また、どんな施設が来るか分からないという心配については、もともと24時間消防自動車が出入りしていた場所なので、交通についてはよほどのことがないかぎり新たな問題は発生しない。学校のすぐそばなので、変なものも来ることもありえない。そこは行政を信じてほしい。</p>
	3	<p>吹田市立博物館の最近の入場者数の動向と講座室の稼働状況を教えていただきたい。</p>	<p>（住民意見）                      自分が行ったときだけかもしれないが、閑散としている印象がある。入場者は増えているのか減っているのか、現状どうなっているのか知りたいので質問した。利用の多い施設と合体させてはどうか。また、講座室の利用に制約が多くて利用しにくい。</p> <p>（市長回答）                      年間3万人から3万5千人で横ばい。あるとき、それまでの殻を破り、市民が夏休みの企画を考えたりするようなことを始めてから増え、市民によく利用される博物館に変わった。ただ、博物館は集客施設なのかというと、研究、保存、記録などの機能を有する施設であり、そのためのバックヤードもあり、さらに情報発信、そして学習の機能もある。来場者に見てもらうための展示エリアは全体のごく一部である。入場者を増やすのもよいが、そのために研究などの力が落ちては本末転倒。博物館法に基づいて博物館ができ、学芸員がいる。そこはリスペクトする必要がある。魅力を発見するのが中心の施設ではない。だが、市民に開かれた魅力ある施設である必要もあり、最近の館長は「市民とともに」の方針である。</p> <p>（住民意見）                      「博物館を盛り上げる市民の会」を作って活動した。赤字だと言われていたが、万博展などを行い、今まで年間1万人だったのを2～3か月で1万人超呼んだ。今は3万人来ている。100人の市民委員を招き入れ、学芸員さんも「市民と一緒にやっていく」ということを理解してくれた。</p> <p>（市長回答）                      「市民とともに」ということで、学芸員にしか入れないエリアに市民を入れたりもした。英断だったと思う。やはり館長次第だ。</p>

第4回 タウンミーティング（地域自治会意見交換会議）議事要旨（佐井寺・五月が丘地域）  
 開催日時：平成29年6月26日（月）午後2時～ 場所：千里山コミュニティセンター 参加者数：12人

地域	No.	事前の住民意見	当日の住民意見・市の回答
五月が丘	4	<p>地域コミュニティのあり方について、市は、これまで様々な検討をし、「地域委員会研究会のまとめ」として課題・課題解決に向けた意見と提言をまとめられた。今後の検討の進め方はどのように考えているか。</p>	<p>(住民意見) この3月に出た報告書を読んだが「検討が終わった。一からやり直し」と取れる内容だった。結局どうなっているのか、これまでの検討はご破算にして、一からやろうとしているのか、これまでの検討を踏まえてやろうとしているのか。 (市長回答) ご破算にしたのは私である。地域自治のことに職員時代からずっと関わってきていて、勉強してきた。自治には権限と予算が必要。地域にそれを渡してしまった事例もあり、試行錯誤が行われているが、地域の自治をする権限と予算を配分するにあたって、権限を持つ人の社会的な立場を考えると、自治会長は選挙で選ばれていない。少なくとも市民の代表ではなく、自治会加入率も5割。性善説に立てばうまくいくかもしれないが、そうではない事例もあり、権限とお金が個人に集中すると、離れなくなることが多い。お金を使って事業をするのではなく、地域の、あるまとまりで合意形成していただき、行政がそれにお応えする提案型の地域自治というのを考えている。 (住民意見) 五月が丘連合では、単位自治会の会長が毎年変わることもあり運営が困難なので、スタッフを置いた事務局制をとっている。全ての団体が加入している連絡協議会もあり、他と違う独特の運営をしている。検討がご破算になって、どうすればいいか戸惑っている。 (市長回答) モデル事業をストップしたのであって、専門家も入れた検討はキャンセルしていない。五月が丘は年齢層からいって10年後も同じ人たちが自治会活動を支えていて、新しい人が入って来ないと思う。そのような中で、連絡協議会の運営も一つのモデルになるだろう。</p>
五月が丘	5	<p>①五月が丘地区は吹田市で初めてできた防災委員会だが、平成8年(1996年)の発足から現在まで連合自治会の補助金にて運営している。現在、吹田市内の各地域で防災委員会が発足していると思うが、住民全員に対する防災意識向上の活動に対して、地域の防災委員会への補助金拠出について考え方を聞きたい。 ②自主防災組織の間での情報交換や連携などのためには連絡組織的なものが必要だと感じているが、市としての考え方を聞きたい。</p>	<p>(住民意見) ①連合自治会から年間10万円の予算をもらって防災活動を行っているが、全然足りない。行政として、当地区に限らず予算の少ない所に対して補助金を拠出する考えはあるかという趣旨である。 ②吹田市の「安心安全まちづくり協議会」に出席したところ、地域の防災委員会は他にきていなかったの、連絡組織は現状無いと認識している。自分は必要と考えるが、市の考えは。 (市長回答) ①について、市は防災用具の給付などインシャルコストは支出するが、ランニングコストは支出しない。ソフトのことを言うと、自助・互助の範囲であり公助ではない。だから自主防災組織なのであって、行政が主導して中央集権的な組織を作ることはしない。皆さんまだそれに慣れておられないが、防災は自助である。大震災など起きた場合市職員も被災するので3日間来れない。消防隊員も半分は被災する。皆さんの自主防災組織も、半分は動けないと思ってもらった方がよい。そんな状態で生き延びるにはかなりシビアな防災訓練が必要だが、訓練にはお金はかからない。市がお金を支出するととなると手続きも煩雑で、ハードルが高い。それよりも自主防災をしていただく方がよい。 ②の情報交換の場は、危機管理室に聞くと「当然必要であり、これから設置する」と言っていた。彼らも試行錯誤中であり、尻を叩いてやってほしい。 (住民意見) 個人としての自助の他に、防災委員会の「組織としての自助」がある。予算の不足分を補うために地域からお金を集めようとしているが、その方法に苦慮している。 (市長回答) マクドナルドハウスなどは、イベントごとに出席して行って寄附を集めるなど、ものすごく汗をかいている。そのようなことを地域でやるのが地域自治ではないか。</p>
佐井寺	6		<p>(住民意見) 公園にたむろして花火を打ち上げたり、ボール遊びをしたり、またボールを追って無断で家に入ったりとすることがよくあり、近隣からクレームがあったので、市に要望書を出した。すると公園の担当者が来て、現場を見て、周り全体に高い金網を張ると言う。それでは公園らしさがなくなるし、金網があれば余計にボール遊びをするだろう。この件で自分は、市役所と近隣住民との間に入って困惑している。 (市長回答) 以前、旭通商店街で、歩道が広く違法駐輪が多いので、駐輪場や禁止条例を作ってほしいという要望を受けたことがある。そのときお返ししたのが「皆さんで朝の通勤時間帯に揃いのハッピーなど着て立ってみては」ということ。実際に一週間やってみたら、誰も自転車を止めなくなり、それから「ここは自転車を止めてはいけない場所」として定着した。 市に要望しても、ハード面の対策をするだけで解決はしない。地域の公園は地域で守らないと。言っていく先がいきなり行政というのは飛び越えすぎと思う。自治会に言うのでもなく、まずは、その周辺の住民がパトロールなどをすればよいのではないかと。</p>